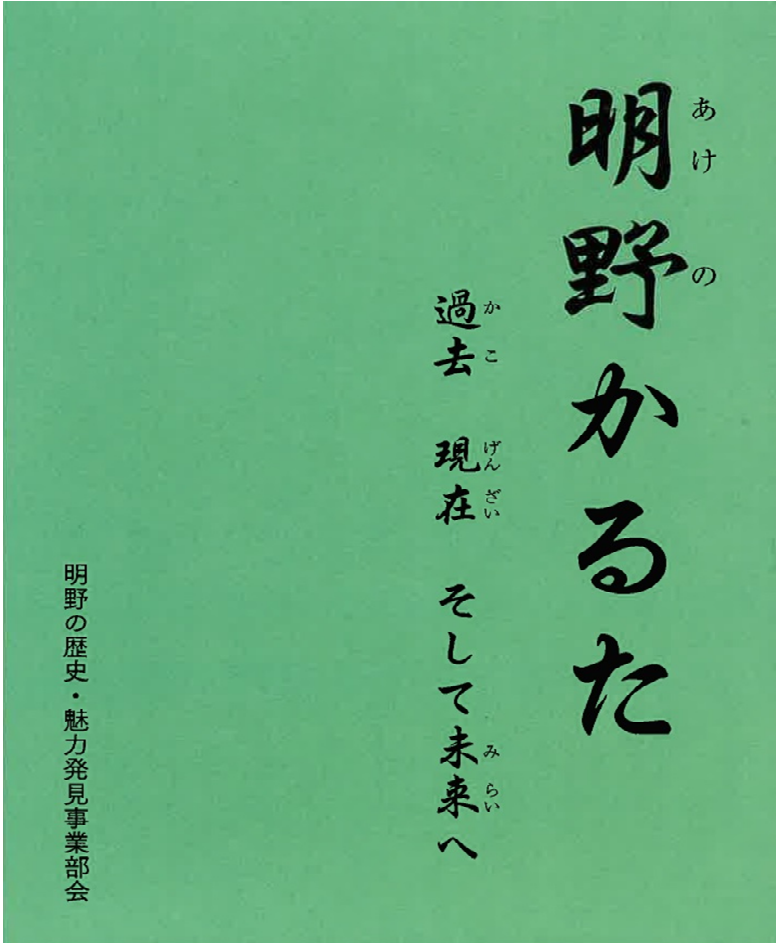




「明野かるた」解説

■作制にあたり

明野団地は、令和7年、開発から約60年を迎える。60年の歴史をたどり、現在の明野を知ることにより、これからの豊かな未来を構想することにつながる。また改めて、明野に対する認識を深める機会となる「かるた」はどこの地域にもあり、珍しいものではないが歴史の浅いここ明野において、今年、この機会に巡り合えた一度、手に取ってみてください

■テーマ

過去 現在 そして未来へ

■関係団体

読み句応募	児童(明野西小学校・明野東小学校・明野北小学校)生徒(明野中学校)一般(明野地区在住・職場や学校)
添削指導	明野短歌会メンバー
絵札	大分高等学校生徒会有志

■作制団体

大分市地域まちづくり活性化事業

「人が安心・明野創生」実行委員会

明野の歴史・魅力発見事業部会

■広報・配置

大分市ホームページにて公開

明野西小学校・明野東小学校・明野北小学校・明野中学校

明治明野公民館・明野校区公民館・明野地区自治会(自治公民館)

県立図書館・市民図書館・明野支所

■出版社

株式会社 大分出版印刷

令和6年3月

絵札・読み札・解説の一覧 あ〜と

	絵札	読み札	解説
あ		あけの明野の名 めいに明治の「明」と いの猪野の「野」	明治22年以来、明治村猪野山と呼ばれていた地区に、昭和20年(終戦)食糧難解消のため開拓団の生活(自給自足)が始まる。その地を昭和23年に行政区「明野」と定める。
い		いっきせい いしころ拾い あけの明野の新設校	明野西小学校は、明治小学校から昭和46年分離独立。開校当時、グラウンドの整備が間に合わず小石が多く、使用前に児童が横一線に並んで石を拾いながらスポーツに興じていた。
う		ウォーキング あけの明野の坂で ひび けんこう 日々健康	明野団地は開拓団跡地、林野やみかん畑等を造成したため高低差の多い住宅地である。児童生徒の通学や日常生活の歩行が明野住民にとっては健康ウォーキングになる。
え		えがお 笑顔あふれ かつき 活みなぎる げんき あけの 元気な明野	明野団地も開発から60年を迎え、少子高齢化が急激に進展した。半面、マンションや戸建ての新築も増え、人口は微増傾向に推移し、活気ある明野に胸を膨らませ期待している。
お		くになま お国訛り くにほうげん お国方言 と か あけの 飛び交う明野	明野団地初期の居住者はほとんど転勤家族で占めていた。遠くは北海道、東北、中部圏・関西圏、そして九州各県の出身者も多く、学校、職場や地域でもお国訛りが飛び交っていた。
か		かも 鴨もほっこり はるかわ みなも 原川の水面 うめ なみき 梅並木	明野団地を南北に縦断して流れる唯一の川である。時折カモの水遊びに出会う。土手の一部に自治会有志で梅の苗木を植えた。源流は水分神社に隣接する竜神の池である。
き		きぼう 希望にわく あけの みらい 明野の未来 て 手をつなごう	団地生活は空間が少なく、人々が集う広い公共施設が少ない地域である。住民は活力ある明野の未来をめざして「明野創生ビジョン」を掲げ、協力して実現に向け努力している。
く		くわ入れの儀 しらぎく かいかん 白菊会館 あけの はっしょうち 明野発祥地	明野団地開発の起工式は、昭和40年11月13日大分県主催で挙行された。大分県知事の鍬入れの儀により第一期造成工事(公共施設、住宅利用計画、公益的施設)が始まった。
け		げんき 元気です こんにちはの声 あけの こ 明野っ子	明野地区は学校・地域・家庭が一体となり、あいさつ運動を展開している。登下校時はもちろん、子ども達の日常の遊びの場や行き交う人は率先してあいさつをしている。
こ		こうだい 広大な しぜん のこ 自然が残る しょういざん 松栄山	松栄山は大分県護国神社を囲む大分市の風致地区にあり、周辺の景観を維持するすぐれた自然環境保全ゾーンである。護国神社の裏山を登ると緑に囲まれた松栄山公園が広がる。

	絵札	読み札	解説
さ		さあ出発 しゅっぱつ ひやくねん めざ 一〇〇年目指して あけの そうせい 明野創生ビジョン	明野地区は平成27年、「団地開発50周年記念事業」として「明野創生ビジョン」を策定した。さらに記念総会において「明野50宣言」を採択し、明野活性化に向かって努力している。
し		しんさんと 新産都 げんどうりく 原動力は あけの だんち 明野団地から	明野団地には臨海工業地帯の主力産業とその関連企業で働く従業員の家族の居住者が多く、住民の多くが新産業都市建設に直接関わっている自負心が強くまた誇りに思っている。
す		スポーツで ひと はく 人を育む あけの ち 明野の地	初期の居住者はスポーツ(競技)を楽しみ、「交流と融和」を深めてきた。現在の「明野コミュニティ」の形成は、自治区を超えた老若男女が集うスポーツによるところが大きい。
せ		せいみつ 精密に ダンポール組み込んだ かみ 紙みこし	明野団地には神社仏閣がなく、祭りも神社から繰り出す神輿はない。臼杵市の紙雛にヒントを得て自治会ごとにダンポールを精密に組み込んだ子どもみこしを作製し巡回している。
そ		そらあお 空青く つつじ広がる あけの みち 明野道	観賞用に咲く花で話題になる地域は多いが、住宅地でツツジが多く綺麗に咲く所として明野団地は知られている。開花時期になると、観賞にバスで訪れる高齢者施設等もある。
た		たかおやま 高尾山 ぼくにとっては こんちゅうかん 昆虫館	明野団地に隣接する60万平方メートルもある広大な高尾山自然公園の中には、四季折々の草木や生息する昆虫類が多く自然観賞できる。「自然観察ガイド」大分市発行パンフレット有。
ち		ちらほらと おおたにこうえん 大谷公園 さくらま 桜舞う	大谷公園は近隣公園として比較的大きい公園である。樹木が多く、なかでも桜木が多い。桜花の下、友と一献傾ける風景が似合う。朝夕の散策コースとして利用する住民は多い。
つ		つなげよう でんとう さんだい ぎょうじ 伝統の三人行事 いつまでも	春の「明野大体育祭」、夏の「明野まつり」、秋の「明野芸能祭」を三大大行事と称している。スポーツと文化、そしてふるさと醸成をめざし自治区を超えて住民全体で取り組む行事である。
て		てんねんづかこうえん 天然塚公園 ぐみの実つんだ かえ みち 帰り道	専想寺開祖天然上人のお墓があるので天然塚公園と命名された。児童の自然観察の学習にも利用。下校時に、紅く熟れたグミを友ともぎり、戯れながら帰路につく子らもいた。
と		とうげこう 登下校 みんなで見守る あけの ちから 明野の力	登下校時、学校の先生、保護者や自治会役員等多くの方が交差点や歩道脇で安全指導に努めている。明野は安全で安心して住める良い環境であると評されている。

	絵札	読み札	解説
な		な はな 菜の花を ふ わ か 踏み分け駆けた く さけいば 草競馬	天然塚公園の一角には明治28年に草競馬場が造営された。年2回、近郷の農家が自慢の農耕馬を競い、弁当持参で家族ぐるみで楽しんでいた。太平洋戦争が激しくなり中止された。
に		に まるにこ 二〇二五 あ けの だんち けの明野団地は げ んき かんれき 元気な還暦	令和7年11月13日、明野団地開発60年を迎える。10年前に「明野創生ビジョン」を策定し、安心安全な明野、心豊かな明野づくりを進めている。時代をつなぐ精神は伝統である。
ぬ		ぬくもりと やさ つた しさ伝える あ けの せんじん けの明野の先人	新興団地の明野住民は「共生社会」づくりに奔走した。自ずと互譲の精神が芽生え、現在の明野コミュニティの基盤となっている。「優しいと思いやり」を育む伝統を大切にしている。
ね		ね ある 練り歩く こ どもみこし どもみこしの かね たいこ 鐘太鼓	明野まつりの開会式には、子ども会と保護者がそれぞれみこしを担いで参列する。閉会後は各町内を太鼓の音色とワッショイの掛け声で巡回。住民は、賽銭もはずみ、賑やかになる。
の		の なか こうえん なか野中公園 つ ゆ あじさい ゆ梅雨に紫陽花 さ ほこ き誇る	季節になると野中公園の法面いっぱいには色とりどりの紫陽花が咲き誇る。明野クリーン推進員自慢の植栽である。明野は各自治区でも「花と緑のまちづくり」に積極的に取り組んでいる。
は		「はっつけよい」 の あいず こったの合図で こ どもすもう どもすもう	神社仏閣のない地域で、しかも新興団地において日本の伝統競技である相撲を祭り行事に取り入れた所は明野団地だけである。今や明野団地の伝統行事となっている。
ひ		ひ がしはる じぞう がしはる東原のお地藏さん やさ め しい目で み まも 見守っている	火伏せ地藏として東原を見守っている。由来は、明治維新の廃仏毀釈から難を逃れようと、東原の草むらに隠されていた。それを信心深い村人が探し、懇ろに祀ってきたと伝承されている。
ふ		ふるさと 故郷は あ けの じまん けの「明野」と自慢 す だ だ巣立ちし子ら	明野で育った子どもたちの多くは、進学や就職で県内外に転出する。新しい友達もでき弾む会話は、明野で過ごした数々の楽しい生活、そして温かい大人の眼差し。
へ		ベッドタウン し よく 職でつながり は なひら な花開く	転勤者で形成された初期の明野団地は、職場の縁でつながる「職縁社会」であった。住宅が増えると共に、スポーツ交流など自治会活動が活発化し、徐々に「地縁社会」へ移行した。
ほ		ボラが迫トンネル けん どう ぞ 道沿いで ひ っそり っそりと	明野団地から下郡經由大分市街地へ向かうバスは、「ボラが迫トンネル」を通っていた。今は知る人も少ない。昭和49年、県道大分臼杵線の拡幅(新道)工事によって廃道になった。

	絵札	読み札	解説
ま		まつ はじ りの始まりは しょう わ ねん わ昭和45年 おく やま こうえん やま奥山公園から	明野まつりは、子どもたちに”ふるさと意識の醸成”をモットーに三自治会結成と同時に始まった。当初は、スポーツ競技もまつり行事に取り入れ、三回まで奥山公園を主会場に開催された。
み		みん ぞく だいいどう ぞく族大移動 ふ ぼ ぼ母に連れられ し んてんち ん新天地	臨海工業地帯の工場の建設に合わせ、明野団地へ家族ぐるみの転勤が大量に始まった。昭和45年～46年にピークを迎え、その状況を大分合同新聞は「民族の大移動」と報じた。
む		む かし いま かし昔 今 み らい らい未来へつなぐ あ けの れきし けの明野の歴史	平成6年、明野歴史の原本となる「明野のあゆみ」が残された。団地開発50周年記念事業で「新編明野のあゆみ」を発行。令和4年「明野の歴史をたどる」マップを作成し次代につないでいる。
め		め まぐるしく まぐるしく うつ か かり変わる あ けの ふうけい けの明野の風景	アクロス南側の広大な駐車場はかつて企業社宅のアパート群であった。大分高専からアクロスに向かう東側の医療施設や西側のマンション等も同じく次々と変貌を遂げて来た。
も		も やま とは山 く なん た んに耐えた あ けの かいたくだん けの明野開拓団	戦後の食糧事情は困難を極めた。国は開拓事業を推進し猪野山にも昭和20年開拓団が入植した。自給自足の苦しい生活だった。昭和36年、団地開発する県の用地買収に応じ解散した。
や		や よい さんがつ よい三月 さ くら まんかい くら桜満開 あ けの だんち けの明野団地	明野地区は季節になると桜の並木道と評されるように、開発時に桜の幼木を植えたのが、ここにて見事な花を開く。桜は沿道だけでなく各地の公園や企業施設にも多く見ることが出来る。
ゆ		ゆる ぎない だんけつ りない団結 あ けの ちく けの明野地区 じ ちかい ち17自治会	明野団地の中心部の開発は、大分県によって計画的に開発された。周辺部は民間業者によって開発が進み、現在、17自治区が形成され、自治会連合会を結成し一体的運営に努めている。
よ		よう しょ わしょ しょ洋書や和書 で あ あ出会った一冊 あ おそら としょかん たら青空図書館	推薦したい児童書や小説、仕事で活用した専門書籍等を持ち寄り、読んでみたい人が手に取り持ちかえる青空図書館。参加者は目当ての一冊に会い、思わず顔がほころぶ。明野の好評行事である。

	絵札	読み札	解説
ら		ラッシュ かいしょう 解消 き たい 期待の しょう はる きの せん 庄の原佐野線	庄の原佐野線は宗麟大橋を渡り滝尾地区は高架で通過し、県道大分臼杵線の明野地区につながる大事業である。ただちに渋滞解消とはいかないが、促進期成会の運動に期待する。
り		りん ぼ はん ぼ隣保班 き こえか 気かけ声掛け さ えあい えあい	団地開発以来、明野地区は共生社会の形成に努力してきた。高齢化が進み、地域コミュニティの希薄化が指摘されている。今こそ明野は隣保班の助け合いの精神が大事な時である。
る		る りいろ そら りいろ瑠璃色の空 けん こう ゆうきぐ こう健康遊器具にて とも かた 友と語らう	高齢者の健康増進と居場所づくりを兼ねて、天然塚・野中・奥山の三公園に健康遊器具を設置した。散歩を兼ねて住民が集い、遊器具を活用し談笑する場となっている。
れ		れ い ね い令和のはじめ ち いき ねむ いき地域が眠った こ ろな さんねんかん ろなの三年間	明野地区は色んな交流行事が活発に行われている。令和のはじめ三年間、世界を襲った新型コロナウイルスにより、明野地区でも人が集う行事は自粛、縮小や中止のやむなきに至った。
ろ		ろう にやくなんによ にやく男女 ぶん か げいのう ぶん文化芸能 に ぎ ぎ賑やかに	明野三大行事の一つに「明野芸能祭」がある。日頃、研鑽されている各グループの発表の場であり、明野の文化芸能活動の集大成である。児童生徒の参加も会場を華やかに彩る。
わ		わ る る輪になって あ けの おんど けの明野音頭に は な な花が咲く	明野まつりの花形明野音頭は、「ふるさと明野の歌と踊りを創ろう」と昭和53年に創作された明野の無形文化遺産である。令和5年、明野音頭保存会を再編整備し揃いのゆかたを新調した。